



第1分科会

第4分散会

I はじめに

分科会基調は、討議の課題を基に私たちの身の回りや生活の中でも、中には「もう部落問題・部落差別はなくなった」という認識をしている人が増えているのも現状。しかし、実際には私たちの生活の中では、部落問題をはじめとする差別事象は増加傾向にあり、表面上に見えなくなっただけであって、インターネット上での差別的書き込みが絶え間なく起こっていること。

「自分らしく生きる」という個々のアイデンティティを尊重できる教育をめざしていくことが望まれる。

部落問題だけにかかわらず、在日コリアンの方々に対するヘイトスピーチや、LGBT、あらゆるマイノリティ側に対する理解の不足。本当のことを知らないままに「不確かな情報」を鵜呑みにして、知らないがゆえに差別から犯罪に至るといったケースが増えている。これは捉え方によると、私たちが、「正しい知識」を十分に伝えきれていないということを確認しているのではないかと。それらの問題が、子どもたちをも取り巻いていることを確認した。また、情報機器の使い方を誤り、いじめ・差別を助長させる行為が後を絶たず、園・所・学校の中でもさまざまなトラブルや事件につながっていることを確認した。インターネット上で安易に書き込み、閲覧ができるようになったことで、偏った情報に左右され新たな差別が生まれている。そのような状況の中で、子どもたちが加害者にも被害者にもならないためには、「正しい知識」「正しい情報」を精査できる判断力や、差別に立ち向かえる力を身につけることが必要である。生まれや、育ちの中で決して傷つけられてはいけないのが「人権」であり、人はみな、生まれたときから平等で、「人権」が傷つけられることはあってはならない。その「人権」を傷つけるような様々な差別事象が後を絶たない。日々私たちはそれらの問題と真摯に向き合い、「差別の現実」から深く学ばなければならない。目の前にいる子どもたちは、「自分のこと」「家族のこと」「友だちのこと」を大切にできているのか。また私たちも子どもたちを大切にできているか。我々は、互いを尊重し合えるように子どもとともに差別と向き合い、個別の人権課題に取り組み、「人権確立や反差別の学習」を深めていく必要があるのではないだろうか。

子どもたちとともに地域のことや、マイノリティ側の立場のこと「一部の知識を得ること」だけではなく「正しい知識を得ること」や「本物と出会う」ということを通じ、それらに対して怒りや悲しみを感じ、差別と闘える意識を高めていく取組をめざす。子どもたちの個別の課題や、生活背景、差別の実態から学び、この全人教大会の中で、みなさんともに学びに変えていくよう基調とし、報告に入った。

II 報告及び質疑討論の概要

1日目

報告1-⑩ 誰一人取り残されないために
～子どもたちの元気になる居場所をつくりたいんや～
(香川県同教)

地域の方々が、文化センターや児童養護施設での学習会を通して「学校と子どもをつないでくれている」ということを中心に報告された。学校で見せることのない素顔にも迫っていくことができたことや、温かさを感じたことを地域に支えられていることを思い知り、学校だけで子どもたちをつなぐわけではないという課題と向き合う。

自分自身の至らなさを、地域を通じ、子どもを通して痛感させられたことを報告された。

—主な質疑と意見—

熊本…かずきさんの課題とは何か

奈良…課題と、学校の具体的な取組とかずきさんの変容

東京…かずきさんのお父さんに関わって。お父さんの言葉に込められた思いとは

報告者➡かずきさんの家庭の事情により、出席が少ない時もあった。対人関係が苦手で感情的になってしまうことが多々あった。座席の工夫、人権同和教員として机の高さや共同学習、グループワークに力を入れコの字型にするなど工夫した。お父さんの思いは、「様々な人とのあいがあって今の自分がある」

東京…不登校傾向の児童という認識でよい？

報告者➡かずきさんの小学校時代の担任「本人は言葉にしたいとできないところがあり、癩癩的になってしまうようなところがあった。様々なトラブルを抱える子である。しかしながら、『これだけはやりきる』という姿勢は変わらなかった。時折本当に大丈夫かと思わされるところもあったが、中学校になってここまで成長したのかと感謝している。」

香川…報告校教頭「家庭の事情をお話できない部分もあることをご理解いただきたい。本校は地域と学校で支え合っている。

福岡…タイトルにひかれてこの会場にやってきた。本校でもいろんな課題を抱える子どもが多く、かずきさん以外にもどのように取組されたのかあれば教えてほしい。

報告者➡「誰一人取り残されない」学校をめざすが、

うまくいかないところもある。学校職員一丸となって、授業、環境など様々な工夫をしながら、かずきさん以外にも配慮のいる生徒に向き合っている。家庭との協力を得たいがなかなか連絡がつかないところもある。そんな家庭がやっと一年半かけて学校を信頼して連絡をくれた…など学校協力者から多数意見が上がった。

兵庫…文化センターの取組の参加者、歴史、背景を知りたい(地域連携)

熊本…熊本には被差別部落の中でのセンターがあり、学習会がある。それと同じなのかなと思いがら聞かせていただいた。

報告者→毎週火曜・木曜学習会がある。教科関係なく子どもがしんどく思っていることを聞く時間などに使っている。40年間続く歴史がある。学習会で真摯に話を聴いてほしいという地域の方からの言葉があった。「子どもが元気になる居場所」を提供されている。

大阪…「安心できる学校」となっちはじめて私たちの取組になる。文化センターの取組は分かったが、学校としてどのようにされているのか。

三重…大阪の方と同じになるが、詳しく教えてほしい。

報告者→「誰にも取り残されない」について、部落問題学習については地域の方とともに教材研究を行い、年度ごとに家庭・地域の保護者と話し合いをしながら詰めている。何か子どもたちに残していきたいという思いで授業を作り上げている。3年間の中で授業を組み立てながら総合学習、人権教育をさまざま行っている。障害者問題、ハンセン病問題など…

奈良…かずきさんのことで気になることがあり質問。「みんなと仲良くしたい」はかずきさんの変わり目、具体的な子どものエピソードがあれば。

報告者→人権合唱祭、「みんなで一つのもの創り上げる」体育祭で、かずきさんがなかなか参加できない。教室で一人でダンスしているところを自然とフォローしているところがあって感動したことがあった。

報告 2-⑮

水平社宣言とこれからのわたし(長崎県人教)

蘭学をはじめとする部落問題学習を行った際に、「かわいそう」という言葉を出させてしまったことから、どのように教材化していこうかと何度も工夫を重ね、水平社宣言の取り扱いについての難しさを報告された。報告の中では、学習後の子どもの感想や変容が何度も多く言葉としてつづられた。

—主な質疑と意見—

福岡…もう一度授業されるなら、どのような発問をされるのか。部落史のねらいと社会科のねらい、水平社宣言にどんなねらいがあったのか

山口…1. 蘭学の発問 なぜ重要視して発問したのか。

2. このような感想を先生の課題が何か

3. 子どもたちはどんな考えがあればよいかと期待していたのか

滋賀…TTと授業したメリットデメリット

「学びなおし」の反応した子どもの様子

報告者→蘭学の発展に貢献する人がいなければ、どのような時代になっていたのかということ。単に「道徳」になってしまっはいけないと思い、水平社というよりも石庭や文化、解体新書などに重きを置いた。名前が載らなくとも素晴らしい貢献を残したということをしたかった。差別されたから載っていない、「かわいそう」と出してしまったことに反省している。哀れみでは差別はなくなる、水平社宣言を読みそれでは差別はなくなる、と改めて知ること、貢献したのはどんな人たちだったのか。

TTの時には、特に社会科で資料を用意すること、担任が板書することをしてきた。この学習では社会科は担任、部落問題学習では私が中心に取り組んだ。

学びなおしで、人と比べられてつらいと感じたことをたくさん出してくれ、この学習とつながったと思っている。

兵庫…「かわいそう」と出してしまったところで、水平社宣言を扱われたところで、子どもの意識を変えたのはすごいと思った。地域によって意識が違う部分もある。「寝た子を起こさない」ために注意されていることは?

福岡…年間の時数があるが、どんな構成で工夫されたのか。「かわいそう」「助ける」という言葉に対して、後日問いただした意図は?

報告者→長崎には部落問題学習が見えにくいところがあり、取り組めていない、失敗したらどうしようと二の足を踏んでいる人が多い。とにかく部落史を正しく、時間を割いて伝えていかななくてはと考えている。105時間の中で蘭学・解体新書・日本地図の45分を25分に短縮したりした工夫をして、部落問題学習をオーバーしながらも取組を進めた。聞き返さなかったのは「間違っことを言ってしまった」ということを内容にしたかったのだ。

大分…「かわいそう」から始まって「何とかしないとね」と積み重ねることが必要と思って取り組んでいる。積み重ねや系統について教えてほしい。

報告者→ためらうことが多いので、さまざまな地域の取組を集めて資料集を作っているところ。失敗してしまった。

大阪…子どもたちの考えや行動を、考えやすくするための工夫

報告者→差別をなくすためにどうするかについて、多くのマイノリティの差別と出会う話と、そんなときどうすると問うことなどをした。

山口…腑分けと水平社、山口では長州藩で初めて女性の腑分けをしたところでもあるので山口水平

社を学ぶようにしている。地域教材や現在の部落問題をどう学んでいくのか、あれば教えてほしい。**報告者**→長崎でも現在の差別を提示するようにして、力を入れるようにしている。

水平社が長崎は最後にできたと聞いているが、教材化できていない。今の部落問題を子どもたちに教えることやネット上の問題を出してはいるが、部落史を見直していかなければならない。小学校では難しいと思う部分は多い。

奈良…子どもたちの被差別部落の認知や現状を教えてほしい。腑分けのかわいそうという言葉の中に、深堀すると不満や憤りになるのではないか。もう少しこの「かわいそう」に迫ってみてはどうだったのか。

報告者→長崎では、ルーツや部落のことは全く分かっていないと思う。すごくデリケートな部分なのでカミングアウトさせるわけにもいかない。原爆の投下によって散々になってしまいわからない部分がある。「かわいそう」についてはご指摘の通りだと思います。

大阪…人権担当だから「部落問題学習」をするのではなく、サポート側になっていくべきだ。ほかの教員が共にしよう、というような動きはなかったのか・学校で人権教育を同じようにしようとする人はいなかったのか。

報告者→もちろんサポートに回るべきだった。授業後には担任と話し合った。

香川…子どもの日常化へ落とし込んでいるのか。授業の中で「部落差別」という言葉が出てきたのか。

報告者→なかなか落とし込んでいるということではない。ご指摘のとおりである。

《1 日目総括討議》

- ・私たち、教職員の変容はどうか
- ・自分の部落問題認識
- ・私たちがどのように「学びなおし」を行うのか「自分事」として考えてもらう。

長崎…数少ない実践から実践報告をしてもらった。学ぶ機会になった。県人教としてカリキュラムを作り直しているところ。長崎の「学びなおし」を評価されたことはありがたい。これから教材化していかななくてはいけない。

山口…初めころは、被差別身分の人たちの技術や文化が素晴らしかったから…と授業してしまって…差別を超えた信頼関係を気づいていったということを考えさせたい。地域教材をすると、「うれしい」という感想がでる。「うれしい」という表現がいいのかわからないが…

大阪…本音を言い合える関係。今日の2本の取組の報告は持ち帰って実践に活かせると感じた。すべての学校で当事者がいることを忘れてはいけないと思う。

大阪…教員のやるべきこと。ちょうど研究授業を控えている。人権担当として伴走したい。長崎の報

告を聞いて、自分も先陣きってしていかないと考えていて、しんどくなってしまったことがある。今日の討議で、誰もが差別を受けることも、してしまうこともあるということを改めて学ぶ機会になった。

島根…香川の報告で、学校での情報共有はどうなっていたのか

報告者→担当外の先生もかずきさんやほかの子の様子を見に行ってくれるようになったり、日々いろんな先生が応対してくれたりと変化してくれるようになった。地域の方からほめていただき、多くの教職員が変容していった。

奈良…自分だったら、かずきさんのような子に対して「なぜ学校に来れないのか」を自分自身で考えて、学校で考えていくと思う。奈良県では「さるとかに」という教材がある。両方を気持ちに寄り添えるようになっている。大阪の「きみの家にも牛がいる」の絵本から、本物と出会わせる取り組みをしている。先輩の先生が一から学びなおして取り組んでいることに敬意を表して、一緒に頑張りましょう。

福島…今日の中学校の取組を見て、チームワークに感動した。自分が部落問題学習をしたときに戸惑うと思う。「誰かが困っていたら」と「差別されている人がいたら」ではなく主語に注目させている。

奈良…自分が考えたいこと、「自分を差別しない」というところで、自分も水平社宣言に取り組んでいるところです。教材を大切にしたい。この教材で、子どもと取り組むときに、その子どもたちと一緒にどう取り組むかをよく考えることがある。ハンセン病問題に取り組むにあたって、療養所に訪れた時に自分の差別心に気づいた。

奈良…水平社発祥の地だから取り組むのではなく、人権教育は知らないといけないことがたくさんあることによって、「人権教育嫌い」を生んでしまっているところがある。知らない人が多い。6年間のやはり教材の積み重ねが重要。YouTubeで猫ライダーという人が校区を撮影していることを子どもたちに共有した時に、子どもたちは「かわいそう」と感想を言った、「差別を大人が残してる」や「他に時間使ったらいいのに」と的を射た言葉を言い放った。

大阪…学校で私たちがマイノリティを生んでいないか見直したい

東京…自分はトランスジェンダーで、それを伝えたくて教壇に立っている。自分も水平社宣言について今日は深い学びになった。自分には避けられない「結婚差別」についても考えさせられている。

香川…次にどう生かしていくのか。管理職として次の世代を育てていかななくてはけない。

2 日目

報告 3-16

「わたしはインドが大好きです」(熊本県人教)

「人間らしく生きなさい」という父の言葉。男も女もない人間らしくということが好きで、幼少期か

ら人権の内容に関わる父の言葉から多くを学んでいたが、弟が不登校になったとき、暴言、暴力をふるっている姿だけを捉えて悪く見てしまっていたという。

自分を語ることから始まり、インドにルーツを持つ子どもを通して、自分の教師としての未熟さを子どもたちのつながりから学んだことなど、思いをつないでいくこと・伝えていくことの大切さを子どもたちとともに学んだ報告がされた。自分語りによって、子どもたちが積極的に語りをつないでくれたことによって、変容する子どもたちの姿が印象深い報告であった。また子どもたちの行動によって自分の中にあった差別性に気づかされた。

—主な質疑と意見—

熊本…先生と子どものもつながりが見えてとてもよかった。4年生になってはじめて弁当が出せた。1年生から3年生までどのような取組がされてきたのか

大阪…今の6年生の様子を知る限り教えてほしい。「なんで弁当？」って気づきと反対に班替えのときに「ずっと隠してるんですよ」と言った子どもたちの現状を教えてほしい

報告者→1～3年では食べれないからとクラスでは話していたが、学年で統一してということは無かったので、クラス替えによって知らないことが多く、引き継ぎに課題があった。

他の子ども聞いても答えてくれなかった。周りの子どもなかなか聞けずにいる。話をしてから変容するようになった。今のことについては前任校なので、原担任から

熊本(原担任)…今はみんなが知っているのだから必要ないといわれてしまった。

大阪…なぜ6年間も弁当を作る必要があるのか？除去食対応などアレルギー対応ができていますのか。

報告者→センター式でアレルギー対応は命にかかわることとして対応できるが、宗教対応はできないと言われてしまい、職員室でもどうしていくべきなのか考え、センターに掛け合った。

熊本…古里さんのレポートで、そこに差別があったのではないかと運動を起しているところ

大阪…自分のクラスにもルーツのある子がいる。その子のことを思い浮かべながら…かくして食べている姿を、おうちの方にどのようにアプローチされたのか？

報告者→お母さんと話す中で、弁当を残してきたことがあり、お母さんは「なんとなく気づいていました。シータちゃんにはみんなと仲良く過ごしてほしい。」と願いがあった。

奈良…生活つづり方を取り組んでいる。報告でも子どもたちが綴っていくことで出せることで子どもの姿が見えてくる。ほかの子どもたちも自分のことについてことについて綴っているのか

福岡…恥ずかしいと言わせてしまっていた学級を

どのように見て、取り組まれたのか

報告者→最初は「恥ずかしがり屋」だと捉えてしまっていた。まず、学級を変えるために自身の弟との関係を話すことにした。それをはじめに徐々に変わっていったように思う。

大阪…温かい、ほっこりする。自己開示はすごくハードルが高いと思う。お父さんの言葉のところから気になっていた。子どものことを一人の人間として見ている、先生の熱意がなければ、シータさんも変わらなかった。

報告者→教材に取り組むにあたり、弟のことが頭をよぎり、自分の差別性を話すことに不安があったが、子どもたちに救われた。

熊本…学びにつながった。4月当初にお弁当のことを伝えるかなと思うのですが、先生がなぜお話しされなかったのか。

→3年の引継ぎで、食べたりインドのことを話したりしていたので聞いていたの、自分の意識が薄かった。

香川…中学校に行ったときに、同じように繰り返すのか、どのように連携していくのか

報告者→班ノートの取組をしていて、グループワークを毎日していた。不登校傾向の子どもが自分の思いを共有しているなどしていた。

熊本…小中連携としてはまだできていない。おうちの方の思いを聞いて、給食についても行動を起こしていきたい。

大阪…周りの子どもたちの雰囲気が大きく変わったのではないのか。

人権学習の中でどんな取り組みをされて「インドが大好き」という言葉が出てきたのか。

報告者→自分のことを考える・自分を見つめるを伝え続けた。弟のことを話すということで、自然とシータさんが「インドが大好き」と出てきた。モヤモヤ書きする。

兵庫…自分のことを今ふと振り返ってみて、4年生になってふと恥ずかしいという気持ちが芽生えたのかな？と感じた。

報告者→男の子から何か言われるのではないかと恥ずかしいと言っていた。

熊本…自分のことをまだ話す機会がないが、職員間で話してよかったとおもえることがあった。弟のことを聞きたい。

報告者→弟の暴力や暴言に対して「あんた、普通じゃないよ」と言ってしまう。覚えてなかった。弟と話して、自分の中に差別心があったことに気づかされた。

報告 4-18

差別に屈しないで生きること、自分自身を大切に生きていくこと(東京都同教)

A との出会いをきっかけに、学級の中に生活背景にしんどさを抱える子どもが多数いることに気づき、部落問題学習を通し、自身のルーツも語るなどの取

組をされた。その中で、人権作文で子どもたちが自分のことを赤裸々に書いてくれたことや自分が十分に取り組み出来なかったことや苦しかった子どもの背景などについて報告された。

—主な質疑と意見—

東京・・・自分のルーツを資料に乗せられなかったことはなぜ

報告者→最近差別が厳しくなっている。文字に残すことで今後どうなるかわからない。怖さがあった。文字に残す抵抗が出てきてしまった。

熊本・・・そこに差別があるんだろう。具体的に差別を受けていると感じているときやきつと感じた時はありますか。

報告者→初任校が木下川、皮革産業で有名。自分が出合いなおしをしているときに、研修をした。職員で話をしていた時に、結婚差別の話が出た。「えっ」という差別性を出してくれた先生もいたのだが、自分の目の前で差別がある現状を見てつらくなってしまったことがある。

福岡・・・先生に作文を提出させただけですよね。心の中にあるものを受け取ったものを、学び直しやほかの取組をされたのか。

兵庫・・・子どもの前でルーツを話した時の子どもの受け取り方、反応はどうだったのか。

報告者→Aに書けと言ったわけではなくて、書いてきた。話そうとって A と話したかった。しんどさをいろんな形でつなげたかったのだけど、十分にできなかった。これから A が親のこととこれからどう向き合っていくのかという願いはあるけれども十分に取組や話ができなかったのは事実。

子どもたちの反応について。自分も緊張をしていて、真剣なまなざしで聴いてくれて「よくがんばったね」と励ましの言葉を子どもからもらった。

大阪・・・今日配られていた資料に書かれている内容で、マイノリティについての授業の一文がある。それと最後に書かれている部分がある。これは当事者、被差別者が差別に屈せず生きるといったことなのですか。勇気を出して先生は話されたことはすごく大切だと思うが、そうだとすれば、ここに書いていないことは「矛盾」になるのではないか。

自分たちがマジョリティであることを気付いていない。マイノリティから学んでいくことの視点をもつことが必要ではないか。

報告者→自分が伝えたいことは最後の「おわりに」の部分で、差別に負けない、自分を大切にすることであることを伝えたかった。

福岡・・・自分も考えさせられた。差別を受けてきた人たちに求めるのではなく、差別をしてきた周りの方が変わらないといけないと感じた。

毎年、自分のことを話されているのか。

報告者→毎年ということではない。自分はこの時にやろうというのは自分の中にある。話せなかったこともある。みんなに話したい気持ちはあるがう

まく話せないこともある。今回話したきっかけは、担任になったときに、いろんな背景の子ども達がいる中で、時間がないだけで、部落問題学習を必ずやって、自分のことを話そうと思った。

熊本・・・文字に残せない世の中をどうにかしないといけない。6年生のときに石川一雄さんのビデオを見て、衝撃と怒りがわいてきた。担任が「部落出身の方と結婚できますか」子どもながらに、担任を疑った。先生の中にある差別に気づいたような気がした。友だちのお父さんは高校の先生で、けど「寝た子を起こすな」という考え。うちの両親は「差別はいけない」と言っていたのに、いとこのお姉さんが結婚するときにもものすごく反対していた。そのことでお母さんと大喧嘩したことがあった。私たち教員が低学年のときから差別のことを学んでいって、全国的にそのような取組があれば、ネットを開いたときに「おかしい」と思えるように。学校に任された責任、課題。

熊本・・・自分のことをさらけ出した、先に見えることをもう少し詳しく。

東京・・・被差別のことに関わるといことは、一生の付き合いをしていくという覚悟がある。今回書けなかったということも言われたが、かっこいいと思う。今は書けなくてもいずれ書いて、なかにまに伝わるだろうと思う。過去に子どもから「差別はいつなくなるんですか」と言われたことがある。「部落研がない方がいいんだ」と言ったことがある。

奈良・・・部落出身です。これまで具体的な差別を受けてきた。向き合えない、闘えないこともあります。私は被差別部落を武器としたいくはない。実践こそが私たちの武器にしたいと思います。当事者であることを語る時に、必要性を感じた時に伝えていってもらえたら。

報告者→話したことを、いつか思い出してほしい。地域が部落が見えなくなっている。いつか僕のもとに尋ねてきてほしいという願いをもち語っている。

Ⅲ 総括討論

討議の柱として〈討議の課題〉

- ① 子どもたちをとりまく差別の現実を明らかにし、一人ひとりが部落差別をはじめとするさまざまな人権課題を自分の課題としてとらえ、差別をなくすための教育内容の創造にどう取り組んでいるのかを明らかにしよう。
- ② すべての子どもたちがともに生き、ともに育つための教育内容や人権確立をめざした反差別の「なかまづくり」の実践を、どのように創造したのかを明らかにしよう。
- ③ 実践をとおして、保護者・教育者が何を学び、どのように変容していったのか、子どもたちの変容にどうつながったのかを明らかにしよう。

兵庫・・・全人教大会に参加することで、今後につながる取り組みを深めてほしい。

東京・・・自分の父親を差別していた。差別はする側の問題。自分を生きなおす、やり直す、マジョリティの側の理解を深めないといけない。東京の報告は差別に立ち向かっている報告、闘っている姿だと思う。目の前の子に必ず伝わっているはず。昨日の「かわいそう」の言葉を掘り下げていくべきではないか。当事者が取り残されていないか。

東京・・・同和教育をやってくるという人生だった。差別を学びなおす。差別をなくすことは相手を知ること。語ること、書かせる(綴る)ことが目的になっていないか。そこからどう子どもが変容するか、教師がどう変わっていくかを討論してほしい。

大阪・・・差別をなくすということ。誰かが苦しい思いをしている。差別と関係のない学校はない。相手をしっかり、どのくらい知っているのかを問い直すことが重要。その人たちの良さ。集団としての良さ。尊重。

栃木・・・東京の報告者の中学時代の担任をしていた。自分の差別性があり、保護者と話せなかった自分がある。逆に保護者に励まされることがあった。授業で差別はいけないと言いながら、自分にそれができていない。

奈良・・・自分を語ることになんでリスクが付きまとうのだろうと、小学生のころから思っていた。出身について苦しかったことが今になってやっと結びついてきた。でもいつまで当事者に語らせるのか。わたしは部落出身を誇りに思っているわけではなく、同和教育とかかわって受け入れられるようになってきた。普段のかかわりの中で安心できる学校づくりをしていかなければならないと改めて考えさせていただいた。

奈良・・・奈良県でも全体で部落問題学習をできているわけではない。でも出会うこと、聞かせていただけること、わかることを大切に取組していきたい。

東京・・・トランスジェンダーということ、別に語っているわけではない。自分がトランスジェンダーということと言わないと、自分が自分を差別しているように感じる。自分を否定しない子どもたちになってほしい。

奈良・・・今日、自分の差別性に気づいた。どうしても取組を行っている、当事者の方に会ってほしいと思ってしまう。自分がマジョリティの立場で考えていることに反省した。「自分の当事者性」についても考えていきたいと思う。

福岡・・・「かわいそう」から授業できるのではないかと考え直すことができた。何がかわいそうなのかを考えれば、功績を残しても教科書に載らないことに対して「かわいそう」と出たのであれば、問い直せると学びになりました。

福岡・・・東京の報告から、自分がどれだけ部落の方に責任をとれているのか。出会っている差別に気づいてこれなかった。4本指たてられてもわからなかった。

福岡・・・語る・綴る、思いをつなぐことが大切。行動

力や実践力をつけていく必要がある。

東京・・・部落の人と一緒に子どもたちを育てていくことが大切だと感じた。

奈良・・・実践ということをよく言葉にする。日頃から、どれだけ子どもたちのことを知っているのか、知り合っているのかという点検ができた2日間。自己満足の学習ってよくある。「実践」と言いながら、本当に取り組んでいるのか考えられた2日間であった。無自覚を自覚させていくことが大切だと思いなおした。

まとめ

4本の報告から、どのように連携すればよいのか学ばせてもらった。自己開示ということがあったかと思う。一番言いたくないことが実はわかってほしいこと。語らなくてもいい社会にしていかななくてはいいけない。